

## 第8回 池田町農業振興協議会 会議要旨

日時 令和5年8月7日（月） 午前10時～11時39分

場所 池田町役場 2階大会議室

委員 宮澤敏文（会長）、横澤はま（会長代行）、小林安男、鈴木正幸（Webによる）、  
小松俊一、片瀬善昭、櫻井康人、中山眞、立岩満

アドバイザー 城取和茂、中塚満、市川智由

町長 甕聖章

事務局（池田町振興課） 大澤孔（課長）、丸山佳男（農政担当係長）

進行 大澤事務局長（協議事項は会長）

### 1 開会（横澤会長代行）

### 2 会長あいさつ

（宮澤会長）

池田町は豊かで、人の心が温かくて本当に素晴らしい町政を引かれており、歴代町長、議会、町長をはじめ、皆さんに敬意を表したい。

現在のそれぞれの課題、町から出された問題もあったので、しっかりと共有しながら前に進めて、これから100年200年と池田町の農業がしっかりと継承され、食の安定がなされることも含めながらこの協議会の進行に入らせていただく。

### 3 協議（進行：宮澤会長）

（1）前回の議事録の確認

（甕町長）

第6回の発言の一部を修正。P16「町は全面的に支援を」を「町は可能な限り」に直してほしい。

（2）池田町が取り組もうとしている町の農業生産振興案について

（3）新農業法人について

（大澤振興課長）

町の大きな方向性、目標としてほしい。池田町が取り組もうとしている町の農業生産振興案について資料に基づいて説明。

（小林委員）

農業の担い手の確保は喫緊の課題。（中間管理機構を通じて社口原農地を耕作している）「池田町ファーム」などをいかに拡充していくかが問題。新しい法人を作ることを進めていくのであれば、まずは労働者を明確にしなければ法人は経営できない。ここが一番のキーポイントだ。

農地の有効活用について、2割を高収益作物とされている。持続的経営のためにはこれらを入れ

ていくことは大前提である。実際にはその法人が、営農を決定していかなければならない。法人がきちんとできる方針で営農計画を立てて、それをバックアップしていく。外側から「これをやれ」ということではない。持続的に営農できる品目選定をして、農業経営を決めていただければと思う。

新しい法人ができれば農地の集積集約化に協力していきたい。

社口原農地の計画の確認だが、耕作時の農薬使用について、現行の農薬の安全性は説明が済み、はっきりしているが、安心して作っていいという周辺住民の理解が必要で、安全安心の両方が担保された上で、高収益作物が栽培できることをはっきりさせておいた方が後々問題ない。再確認をお願いしたい。

(小松委員)

農業の担い手確保について、町はどのような支援を考えているか。

社口原農地に生食用ぶどうをR6年 10月に植えるとなっているが、中間答申を採用して先行していると捉えてよいか。

(宮澤会長)

小林委員から「既成の法人のパワーアップを考えて行くべき」という意見だが、現在の既成の法人の実力はどうか。常勤雇用者が何人いるのか。継続的に農業が展開できる法人組織になっているのかどうか。既成の法人をどうするのか。新しい法人にするのか。いろんな問題が出てくるのが想定される。単に農作業の受注組織だけになっているのではないか。町は新しい法人に対して意気込まれているようだが、現状の報告をお願いしたい。

(大澤課長)

池田町ファームはかなり土地利用型の作物を作り大きな面積を担っている。現在は農事組合法人だが、組織的には企業的な運営には至っていない。

(宮澤会長)

現状だけでよい。既成の法人はどうかという話なので、常勤は何人で、どのくらいの面積を耕作し、どのくらいの収益、支払いがあり、これから池田町の担い手になれるのかどうかということを小林委員は聞いている。既成の法人を核として池田町の農業が進められる状況にあるのかどうかだ。

(大澤課長)

池田町ファームは4つの支部からなっている。常勤雇用は3名だが、いずれも女性の事務職員だ。売上げは分からないが、耕作は約100ha。このまえ懇談した際に、後継者問題に頭を悩ませているという話があった。既存の組織で後継者のマッチングをしてほしいと要望した。

(宮澤会長)

今、後継者という話が出たが、これは常勤雇用者500万円／年という考え方、指導を町はしているということによいか。

(大澤課長)

そこまでは言っていない。現在では、構成員として入っていただくという方向だ。

(宮澤会長)

中間答申はアドバイザーのみなさんが中心になってまとめたものだが、7 人くらいの農家の若手を含め、500 万円くらいの年収の常勤雇用の法人をつくることになっている。これに対する町の支援は具体的にどう考えているか。小林委員の質問はそういうことだ。

(大澤課長)

設立には町もかかわり、出資についても何らかの形で考えて行きたい。

(甕町長)

設立については協力するが、額については法人がどのような仕組みになっていくのかによるので、具体的な金額は決まっていない。どの程度の資本の支援が必要か検討をしていきたい。

(宮澤会長)

今の話では、新法人については町が支援していくということだった。小林委員からは代表取締役社長とか理事とか、企業形態は法人が決めることで町が決めることではないという話があったが、町長の見解はどうか。

(甕町長)

その通りで、町は新しい法人に寄り添い計画を組み上げ、具体的に何をどう耕作するか、そこに町はある限りの情報を出す。

(宮澤会長)

小林委員から、担い手が減っている。これにどう配慮するかということで、池田ファームも後継者に苦しんでいる。中間答申では、ちゃんと常勤雇用にしてお金を払うような財政でなければならないとしている。先ほどの説明では、池田町ファーム、グリーンファームいけだとかいろいろ挙がっていたが、このような人たちについては、どういう方針で進めていこうとしているのか。担い手確保にどう町は関わっていくのか。これに対して町は具体的な考えがあるのか。

(大澤課長)

担い手、跡継ぎがないという悩みを聞くので、今年度地域おこし協力隊員の採用が出来た。これを継続しその後の受け皿としたい。雇用という形での受け皿は今のところなかなか想定できない。その点では既存の法人のパワーアップも支援していかなければならないと考えている。

(宮澤会長)

今までの話から分かるように、既成の法人は法人というより業務委託的要素の域から脱していない。松川村や白馬村などの他の地域では常勤雇用で社会保険まで加入して担い手を確保している。池田町には残念ながらそのような法人は一つも無い。このように整理できるのではないか。

農地の有効活用について、前回片瀬農業委員会会長から農地の有効活用案を出してもらわないとなかなか難しいという話があった。

(片瀬委員)

中間答申にもあるが、14haの高収益作物をやる人がどこにいるのか、現在は平均年齢70歳以上であと10年もすれば農業が難しくなる。現在では80%が米、麦、大豆で、収入も米一俵12,000円にしかならない。そういう中で、やる人がでてくるのか、やる人を育て農業を継続していくことが一番の問題だ。この協議会にも現在やっている人が入って、今後農業をどうするかを諮った方がよい。

(宮澤会長)

大変重要な話だ。最初の話だが、担い手の問題、誰がやるのかについて、地域おこし協力隊4名を採用したということだが、3年後常勤雇用するとすればどこに就職してもらうのか。町長はどう考えているのか。

(甕町長)

現在、地域おこし協力隊員は、農業者のところで研修している。中には、その中での生産に関心を持っている人もいる。任期終了後はその生産者の後継者としてどうかとすすめている。

研修期間中はあちこち行ってもらうので、その中で自分に合った生産品等の方向付けをしていく。そして、後継者として育ててもらいたいと考えている。

(宮澤会長)

現状をしっかり掴まないと前に進めないのが、地域おこし協力隊員の3年後は、米が赤字でやる人がいない、続けられる状況ではない。その中で就職し収入を得て生計を組んでいける状況にない。

4人は、どこの法人を想定しているのか。

(大澤課長)

具体的にはまだ方向は決まっていないが、一つの方向としては池田町ファームということになるのかなと思う。

(宮澤会長)

新しい法人は、そのため(常勤雇用)に作るんだろうと思って質問しているわけだが、今のところでは常勤雇用にするのは無理だ。このままでは他の法人に行ってしまう。だから、既成の法人でやるのか、新法人でやるのかを頭に入れてかからなければいけないのではないかと中間答申にも表れていた。現在そのような法人があれば、新しい法人を考えずにその法人にやってもらえばいい、その段階に来ている。その点で、池田町の考えがぐらついている限りは前に進めない。片瀬委員からの意見は、誰

がやるのか、協力隊員はどこに就職するのか、そういう話だと思うのだがどうか。

(大澤課長)

池田町の既存の形態の中では、中間答申にあるように水稻 100ha、高収益作物を12ha やるという候補者はいないという認識だ。社口原もやりながらとなると既存の法人より新規の法人ということになってくると思う。

(宮澤会長)

池田町ファームから離れて新しい会社を作って新しい販売の会社も入れてという発想かと思って聞いているのだが、そのような答弁は町長からはない。たとえば池田町ファームや堀之内や薄井さんだとか全部いっしょになって新しい法人に入り、大手の販売や農協も含めて進めて行くという考え方は、全然別のものであると感じているが、どうなのか。

(甕町長)

基本的には現在の農業法人に力をつけてもらい、今はバラバラになっているが、皆さんの協力態勢が取れれば理想的だ。過日、池田町ファームの皆さんと話したときには、これから後継者問題になると、どうしても人を雇って育成していくという態勢を取らない限り持続可能にはならないだろうということだった。町としてもそのような方向を目指している。新しい法人ということだが、出来れば現在の法人に力をつけてもらい後継者を育てていく形態をとればよいと考えている。

(宮澤会長)

今、町長からは既成の組織の皆さんと話した方がいいのではないかとのことだったが、片瀬委員、それをやっていくだけの力が現在の法人にあるか。

(片瀬委員)

若い後継者を雇えばいいが、池田町は米が多い。中間答申では高収益の作物を作るということになっているが、これだけの面積を誰がどのように作るのかが問題。だから、現在の法人が若い人を入れていけば何とかできるのではないかと思う。しかし、実際には現在の法人でも高齢化しており歳には勝てないのでどうするのかだ。

(宮澤会長)

町長は既成のところできっちりやってもらいたいと思っているが、既成の法人は 72 歳を超える平均年齢で、どうやっていくのか。しかも土地利用型作物から労働集約型作物に切り替えることは今の法人では難しいのではないかというのが、片瀬委員の話だったが、これについて町長はどう考えるのか。町長は難しいと言われたのだが。

(甕町長)

現状の農業者の皆さんでは、片瀬委員の話のように新しいものに挑戦するパワーはないだろうと見

ている。そこで担い手という問題が出てきており、どんな形で担い手を集めていくのかが大きなポイントだ。若い人を呼び込むには就業形態がでてくる。これを整えられるような法人にしていくことがこれからの課題だ。町も地域おこし協力隊員の育成を図り、担い手として育てていき、法人の皆さんの力になっていく方向を考えている。

(宮澤会長)

町長から、就業形態を整備するという話があったが、一番の問題は担い手にお金が払えるかどうかだ。協力隊員にそれだけのお金を払えるのか。

(立岩委員)

2つの法人(池田町ファーム、グリーンファームいけだ)には私も総会に呼ばれたりしているが、2つとも法人としては物足りない法人というか、これが法人なのかという疑問を持ってきた。池田町ファームは4つの生産組合の集合体で、サラリーマンを退職した年金受給者が中心で、法人といえるのか疑問。グリーンファームいけだは常勤者を入れて社会保険も整備して法人らしい法人に持っていける、変えることができると思っている。

(宮澤会長)

池田町ファームは法人という状況ではない。グリーンファームいけだは新規就農者4名を雇用できる力があるか。

(立岩委員)

グリーンファームいけだも変えないと常勤雇用はできない。ただ、変えられる法人だとは思う。

(宮澤会長)

要するに新しい法人のベースにはなり得るとのことか。

(立岩委員)

なり得ると思う。

(宮澤会長)

当然、JA 大北や一般企業が入ってくると新しい法人になるのだが、その人達にパワーアップしてもらい、経営をよくしてもらおうというのが新法人の考え方だ。町長の考え方と違うので、ここで何度も確認している。町長の方でそれでよいということであればいいが、どうも、既成の法人の方ばかり拘っているの、それだけの力がある組織なのかということを検討している。

この答申と町長の考えが食い違っているようだ。

要するに、この新法人というのが、池田町ファームもグリーンファームいけだも全部のみ込んで、一つの大きな法人をという考え方で、新法人と言っている。それで皆さんから一つの条件をつけて生産者団体の皆さんや、一般の流通関係の会社も入れたらして大きな法人を作って、そこで今働いている

非常勤、常勤を入れて新しい法人を作るという方針を中間答申ではしているつもりだ。法人の実態の認識が皆さんと違う。中間答申の後で、法人が作れませんでしたというところで止まっている。

新しい法人を作るというのは、もちろん、今ある池田ファームやグリーンファームいけだの皆さん方に役員に入っていたかと思いますが、それらを入れて大きな組織をつくり進めていこうと理解していたのだが、そこで食い違いがあるようだ。

国は 10 年後の姿の地域計画を R6年度末までに作れとっているが、10 年後も続けていける状況ではない。そこで先に述べた新たな法人に町も出資していくというように理解しているのだが、この認識をもう一度はつきりさせておいた方がいい。

(小林委員)

既存法人と新法人が少しごちゃごちゃになっている。

既存法人とは全く別に新法人を立ち上げるというイメージで取ってるのか、既存法人の合併などの先に新法人があるのか、統一しておいた方がいいと思う。現状いろいろな法人があって、その法人の皆さんが、非常に頑張ってもらっているが、いわゆる企業的な農業経営をしている法人、常勤の職員を雇って、一般企業と同等の企業運営まで持っていく新しい法人を、既存法人の活用も含めながら、新しく池田町の中に一つ作っていくと理解したが、そういう方針でいいのか。

(宮澤会長)

このような考え方で進めることについて町長、どうか。

(甕町長)

今、いろいろな形態の農業者がいる。それらの皆さんの協力・理解を得ずして新しい法人はできないと考えている。今後すべての農業法人を含めて、それを統合した新たな法人組織を作るというのは町もそのような考えでいる。そういうことで進めていただいてもいい。全く新しい法人を持ってきて、現状では農業者の皆さんの理解を得られなければ、池田町の農業はとても成り立つものではないと考えている。

(宮澤会長)

小林委員と私の整理したことと、今町長の言われたことは同じだと理解する。

今ある組織をまとめて大きな組織にし、常勤職員を雇う形で進めるという考えになっていただければいいのではないかと。

(櫻井委員)

今の話、初めて聞かされた。今まで内々にファームの中で検討してきた経緯があるが、常勤雇用を含めてだが、今のファームの状況の中では無理だ。年間給与を払ったときにその収入はどこから出るか。今、構成員の生活が成り立っているのは、年金があるからだ。この中に新しい年間雇用者を入れることは無理だ。平成 29 年から6~7年経っているが、その経過の中でも4つの支部を統一できないファームでありながら他の法人と協力してというのは非常に厳しい。

根本的に何か改革しないとダメだと思う。

新規に雇うのは無理だと思う。

(宮澤会長)

櫻井委員から本音の話があった。厳しい中で池田町ファームの経営をしている。

これらの経過の中で、野菜、果樹、花きを育て、どこに売るかも含めて、しっかりやるために新しい法人を作ることを提案している。

(大澤課長)

十分な法人組織がないという状況の中で、どのように新法人設立を進めていったらいいかわからないというのが現状だ。そこは協議会の方でリードしていただければと思っている。

(宮澤会長)

協議会の方でリードしてまとめてほしいという課長からの話だったが、それでよいか。

(甕町長)

それで結構だ。

(宮澤会長)

新農業法人では参加している人も苦労しない、そのようなものをつくっていこうということで新農業法人を進めて行きたいということでまとめたが。

(片瀬委員)

農業法人を誰が作っていくかという、町で作っていかなければならないということか。

(宮澤会長)

そうではない。農業法人は農業法人が作る。参加者が作る。

(片瀬委員)

募集するなど農業法人を作るのは町だろう。

(宮澤会長)

この協議会で新農業法人の方向性を示してもらいたいということなので、ここでやっと新法人のあり方、姿について触れられると思っている。これがずっと触れられなかった。

ゼンリゾートやマスコミに挙がっていない皆さんを入れ込んでいく場ができたと思っている。これから新法人の構成についても話をさせていただく。

そろそろ新しい方向に行かせて頂き、次の段階に入っていく、その中でオーガニックの方向も取り入れたりしていく、そういう方向に持って行こうとされていて、明確にさせていただいたわけです。よろしい



ですか、皆さん。

(中山委員)

社口原の問題をきっかけにこの協議会が出来たと認識している。堂々巡りでまたもとに戻っている状況がある。要は「人・農地プラン」で10年後の池田町の計画を出さなければならない。農地を集約して、誰がそこに関わるのか具体的に名前を挙げて計画をR6年度中に出さなければならない。これは、町は端から諦めているのかという気がする。これをどうするか。農業委員会が中心になって土地集約しようとしても、それを誰がやるのか分からなくて農業委員会は集約できない。誰がやるのかということがこの協議会の出発点だった。10年後に池田町ファームの名前が残っているかどうかすら分からない状況だ。そこを町も認識していない。新法人が母体となって、池田町ファーム、グリーンファームいけだを取りまとめて応援していくという形でやらないと、既存の農業団体だけでは絶対うまくいかない。

(横澤会長代行)

私の頭の中でようやく整理ができた。いったい池田町の農業がどうなっているのか、担い手の確保、池田町の農業を今後どうしていくのか、その筋書きを明確にし、ようやく新法人という名前が出た。そこが今後どう展開していくのが大事だ。皆さん方の知恵を出してこれからの池田町の農業をしっかりと繋いでいかなければならない。

(宮澤会長)

町長も先ほど発言でお分かりいただいていると思うが、既成の組織を全部含めて、ただ、それぞれで事情があるだろうから入ってくる時期を含めて、新法人というのはそういう人たちに全部入ってもらって、いっしょになって考えていく。皆さん方の提案もその中に入れ込んで進めて行く、それが新法人だ。これは原点なのでそれを説明させていただいた。

社口原についての臼井氏の提案はアドバイザーで意見をまとめており、大切に進めて行きたいと考えている。

次回は、そのための問題点や課題、採用するためにはどうするかなどについて検討したい。

池田町の農業振興、社口原の問題については町民のみなさんからも私にいろいろな提案が来ている。前回の臼井氏の提案も有意義な提案だった。そのような提案があれば、この委員会で取り上げさせていただきたい。本当にいいものがあると思っているので、事務局には委員も含めて提案を受ける窓口を設定してもらいたい。門戸を開ける点についてご賛同いただけるか。

4 閉会(横澤会長代行)